都市計画本委員会　活動報告2010～2012

委員長：小林英嗣（2008～2011）、出口敦（2012～）

1．東日本大震災復旧・復興支援に向けた取り組み

【本委員会全体の取り組み】

- 「まちづくり展」関連イベント「学生シャレットワークショップ　震災復興からまちづくりへ」全国公募により約30名の学生が参加し、2011年4月17～21日開催（本委員会の企画・運営協力）
- 『東日本大震災と都市・集落の地域文脈　～その読解と継承に向けた提言～』（74頁）を2012年3月1日「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国つくり」シンポジウムに合わせて編纂、無料配布。WEBで公開。
（都市計画本委員会＋地域文脈形成・計画史小委員会）

【各小委員会の取り組み】

- 被災地の現場で、石巻シャレットワークショップ（学生31名参加）及び、公開シンポジウム「石巻の復興まちづくりデザインを考える」を開催（2011年8月17～21日）。市長との意見交換の場も設定（都市計画･デザイン教育小委員会）
- 東日本大震災をふまえ、想定外の状況に対応する「これからの都市防災」を2011年度大会ＰＤで議論　（都市防災マネジメント小委員会）
- 大震災時の大学と地域の連携のあり方を被災地大学の被害状況把握とヒアリングをもとに提言（これまでの研究成果と合わせて冊子体にて公表）
（キャンパス・地域連携小委員会）

２．社会要請に迅速に対応する活動体制の導入

- 委員長・幹事が機動的に方針を立て、活動に反映させるための企画戦略小委員会、ＷＧの設置

- 本委員会主催勉強会の開催
  例：「復元力を育む復興まちづくりとは」
  講師 弘前大学・北原啓司教授 （2011年3月）

- 本委員会主導による大会研究協議会の企画
  - 2011年度大会 「共創時代の都市デザイン像　景観の計画的リビジョン」
    （企画：企画戦略小委員会＋景観小委員会 ）
  - 2012年度大会「地区まちづくりのステップアップ ～空間ビジョンへの展開と都市全体との関連～」
    （企画：企画戦略小委員会＋東海支部）
  - 2013年度大会 「（仮題）東日本大震災から２年半、復興にむけて」
    （企画：企画戦略小委員会＋建築計画委員会と連携）

3．小委員会のテーマと活動

1. 都市計画・デザイン教育小委員会
   - シャレットワークショップWG
2. 住環境マネジメント小委員会
   - 担い手連携WG
   - 計画科学WG
3. 景観小委員会
   - 景観研究史WG
4. 都市防災マネジメント小委員会
   - 都市リスクマネジメントWG
5. 地域まちづくり小委員会
   - 地方都市の都市形成WG
6. 土地利用計画小委員会
7. 地域文脈形成・計画史小委員会
   - 計画理念研究WG
   - 地域形成史研究WG
   - 地域マネジメント研究WG
8. キャンパス・地域連携小委員会
   - 連携コミュニティ形成支援WG
   - 都市・地域と大学経営WG
   - サステイナブルキャンパスWG
   - キャンパス・アーバンデザインWG
9. 環境都市モデル小委員会
10. 都市企画戦略小委員会
    - 出版企画WG
    - 計画系連携WG
    - 国際都市デザインWG
    - 大会研究協議会企画WG
    - 社会システム検討WG
    - 復興まちづくりと減災都市設計・計画研究提言WG

① 都市計画・デザイン教育小委員会

1. 活動の目的

「都市計画教育のカリキュラム体系と教育実践の成果」
「シャレットワークショップの蓄積と経験」等を踏まえ、
⇒都市計画教育とそのデザインへの展開手法に関する調査、研究、実践

2. 委員会の組織

■主査：小林正美（明治大）　■委員数：13名
■委員構成：野澤康（工学院大）、鵤心治（山口大）、根上彰生（日本大）、野嶋慎二（福井大）、出口敦（東京大）、北原啓司（弘前大）、瀬戸口剛（北海道大）、岡絵理子（関西大）、遠藤新（工学院大）、有田智一（筑波大）、高鍋剛（㈱都市環境研究所）、高橋潤（明治大）
■設置WG：シャレットワークショップWG（6名）

3. 活動内容

1. シャレットWSを継続的に毎年開催
   → 調査、研究成果を実際の都市・地域に適用、還元
   →教育手法の検証と知見の蓄積
2. シャレットWS後に公開シンポジウムを開催
3. 学会大会時における講評会及び展示会の開催
4. シャレットWS実施地域のフォローアップ活動
5. 小委員会およびWGの開催（それぞれ年4～5回）

参考：シャレットワークショップの開催地（過去4年度）
2009年度：青森県黒石市、2010年度：福井県大野市
2011年度：宮城県石巻市、2012年度：三重県松阪市

4. 活動の成果と評価

・実践を通した具体的な教育効果に関する知見の蓄積および人材育成の有効な手段であることの確認
・シャレットWS参加者を含めた人的ネットワークの構築
・実施地域の実際のまちづくりへの展開（黒石等）
・上記成果を基にした普及活動を行うに至る
・地域への実践まちづくり教育により、学会の社会貢献としても一定の成果　など
→当初想定以上の成果

・一方、手法の整理は不十分であり、今後の課題

5. 今後の展開

・シャレットWSは、次年度以降、住まい・まちづくり支援建築会議内に活動母体を移行

・シャレットWSの成果を中心とし、蓄積された知見を整理し出版（刊行予定2015年4月）

① 都市計画・デザイン教育小委員会

毎年の小委員会の活動の流れ

- ・シャレットワークショップの準備
  ーWSの開催地及びテーマの議論
- ・シャレットワークショップの開催・運営
  ・最終発表会及びシンポジウムの開催
- ・建築学会大会での講評会及び展示
- ・WSの成果の取りまとめと
  地域まちづくりへの成果の具体化の検討
  ー成果パンフレットの作成等

これまでのシャレットワークショップ開催地

シャレットワークショップの開催・運営（2009～2012年）

黒石市(2009)

大野市(2010)

石巻市(2011)

松阪市(2012)

ホームページ： http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s3/index.htm

② 住環境マネジメント小委員会

1. 活動の目的

①住環境マネジメント(ハードとソフト)の体系的な計画・方法論およびその担い手・社会的仕組み(市場と事業)の研究開発と実践

②住環境およびその地域ストックの評価・再生・運営に関する「計画科学」の研究と実践

2. 委員会の組織

主査:有賀　隆(早稲田大学)　／委員:15名

幹事:真野洋介(東京工業大学)、村木美貴(千葉大学)

◆計画科学WG　主査:野澤　康(工学院大学)/委員:9名
設置目的:住環境の再評価と計画・運営の方法論構築

◆担い手連携WG　主査:岡絵理子(関西大学)/委員:9名
設置目的:まちづくりの担い手と連携に関する手法開発

3. 活動内容

2009年度 委員会・WG 4回／事例見学会(仙台)

2010年度 委員会・WG 4回／事例見学会(大阪・豊中他)

◆OS「住環境マネジメントの担い手とそれを支える社会の仕組み」

2011年度 委員会・WG 4回／事例見学会(町田・日野・川崎)

◆OS「住環境のマネジメント:実践的取組とその方法・担い手」

2012年度 委員会・WG 5回

◆PD「住環境再価値化とそのデザイン:俯瞰と発見」200名＋資料集

◆OS「住環境のマネジメント:住環境価値を高める実践的取り組み」

4. 活動の成果と評価

①2つのWGとの共同調査・研究により、首都圏、近畿圏の大都市を対象に、市街地特性(計画／スプロール／歴史的／開発等)と住環境マネジメント方法、住環境の評価軸との相互関連について分析、考察を蓄積した。

②住環境マネジメントの主体である住民組織の仕組み、活動実態、財源など、社会制度に関する基礎データを蓄積した。

③4年目に実施した大会PDと計3回のOSを通じて、関連分野の幅広い研究者と議論し、内外からの研究成果をフィードバックした。

◆評価:①～③を通じて、住環境マネジメントの意味、役割とその担い手、住環境の再価値化等の関係が整理されてきた。

◆課題:事例の体系的整理と支援システムの整備、住環境マネジメント全体を俯瞰した専門書の出版

5. 今後の展開

◆刊行物出版計画:2013年度以降を予定
年度末から新年度にかけて、出版企画を検討予定

◆次年度以降の活動計画
2013年度から新体制のもと、新たな研究フレームを設定し活動を実施する予定

② 住環境マネジメント小委員会

2009.4
小委員会・WG（担い手連携/計画科学）立ち上げ

8
小委員会・WG合同活動①
郊外大規模団地再生・まちなか住環境整備見学会（仙台）

12
小委員会活動①
計画・方法論の枠組み、住環境の評価・価値議論

WG活動①
事例・既往研究整理、活動イメージの共有

2010.9
OS「住環境マネジメントの担い手とそれを支える社会的仕組み」

小委員会・WG合同活動②③
大都市・非計画／計画住宅市街地研究会（大阪・豊中）他

2011.8
OS「住環境のマネジメント：実践的取組とその方法・担い手」

小委員会・WG合同活動④
首都圏市街地研究会（川崎・町田・日野）他

2012.9
大会PD「住環境再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」
OS「住環境のマネジメント：住環境価値を高める実践的取り組み」

12
小委員会活動②
住環境再価値化の枠組み、事例、主体等についての議論

WG活動②
支援情報データベース・計画手法についての議論

2013.3
大都市圏住宅市街地の問題共有
今後の課題整理、次期委員会での活動検討

見学＋研究会（仙台/大阪/町田・川崎他）

大会PD（参加者約200名＋資料集）

小委員会HP+環境マネジメント・データベースの構築の連動

ホームページ：http://blogs.yahoo.co.jp/jms_aij

③ 景観小委員会

1. 活動の目的

「景観の計画的リビジョン」をテーマに景観向上のための計画論的再検討を行う。

2. 委員会の組織

主査：小林敬一（東北芸術工科大学）、
幹事：志村秀明（芝浦工業大学）、宇於崎勝也（日本大学）、委員他12名
設置WG：景観研究史WG

3. 活動内容

◆2009年度（研究懇談会）：景観の計画的リビジョン1－これからの地域・都市づくりを見据えて景観を改めて考える
◆2010年度（PD）：景観の計画的リビジョン2－景観からの価値創造
◆2011年度（研究協議会）：共創時代の都市デザイン像－景観の計画的リビジョン3
◆2012年度（PD）：景観の計画的リビジョン4－豊かな人間=環境づくりにむけた展望
◆催し物として各年、「景観ルックイン」を大会会場近郊で実施。

4. 活動の成果と評価

景観法制定後、とかく矮小化されがちな「景観」を俎上にあげ、多様な観点からその概念と方法の再検討を行った。

この期間に起きた東日本大震災を受けて、その復興過程における景観の役割について議論を加えた。

真壁には景観保全上の課題把握のため見学を行った。都市デザインの方法論的基盤でもあり、またこれからの地域づくりの推進に寄与するべき景観の方法的・制度的条件を、萌芽的事例に基づきつつ、明確にできたと考える。

以上より、所期の目的は達せられた。

5. 今後の展開

『（仮）景観からのゆたかな人間環境づくり宣言』の刊行準備中（鹿島出版会から刊行予定。2013年2月刊行計画書提出）。
発行後、次年度には同テーマでの公開研究会開催を検討中。

③ 景観小委員会

2005-08

生　活　景

景観概念の拡大・原点の再確認

景観まちづくり・プロセスの重視

景観を介した地域の総合的マネジメント

景観ルックイン

刊行物『生活景－身近な景観価値の発見とまちづくり』

景観の計画的リビジョン

2009 研懇

問題提起／景観向上に関する計画論的課題の抽出

2010 PD

景観アプローチの領域を超えた広がり

2011 研協

景観と都市デザイン／建設プロセスの改善・共創

2012 PD

景観の役割／復興過程や中心市街地活性化などで

景観向上のための新たな社会技術像（制度・技術・人材）

景観ルックインを通じた情報発信・収集・交流

2013

とりまとめ『景観からのゆたかな人間環境づくり宣言』

刊行物（予定）

江刺

八尾

真壁

浅草

名古屋

④ 都市防災マネジメント小委員会

1. 活動の目的

時代の潮流をふまえ，防災まちづくりのあり方を展望する．また前身の小委員会のテーマであった復興についても現段階での知見を整理する．

2. 委員会の組織

主査：加藤孝明
委員数：14名
構成：計画系・構造系，若手中心の布陣とした．
設置WGの概要：復興マネジメントWG：当小委員会の前身である都市防災・復興小委員会で大会時に開催したPDの成果を元に「良い復興とは（仮称）」をタイトルとする出版物の企画・粗原稿の作成を行う．

3. 活動内容

2008年度：キックオフ，時代の潮流の整理
2009年度：PDに向けた都市防災課題の見取り図の作成
2010年度：大会にてPD「これからの都市防災」の開催，緊急公開小委員会2回「東日本大震災の被災地の被害状況及び復興状況」
2011年度：東日本大震災報告書目次案の検討

4. 活動の成果と評価

・時代の潮流をふまえ，今後の都市防災の方向性について大会PDを通して提示した．
・東日本大震災の復興状況，復興過程における問題意識を共有した
・東日本大震災報告書都市計画編の目次構成案を作成した
・世界の復興事例について情報共有を行った．
・小委員会活動としては，当初目標を概ね達成できた．一方，刊行予定であった「世界の復興事例」の原稿が完成しなかった．
・311発災を受け，東日本大震災の被災状況，復興状況を小委員会で共有，フォローできた．

5. 今後の展開

・本小委員会の成果である「今後の都市防災のあり方」を受け，地域防災・復興小委員会を設置し，継続的に活動する．具体的には，地域ベースの防災まちづくりのあり方の精緻な実証，復興準備のあり方について議論を蓄積する．
・本小委員会WGの積み残しである刊行物「世界の復興事例」の出版準備活動を継続する．

④ 都市防災マネジメント小委員会

テーマ:これからの都市防災

2009年度

キックオフ:問題意識の共有

2010年度

都市防災の課題
見取り図作成WS
（時代の潮流の理解）

2011年度

都市防災の課題
見取り図作成WS

【公開小委員会】
東日本大震災
復興状況共有

復興マネジメント
WG
「世界の復興事例」に関する情報共有，
執筆準備活動

大会PD「これから都市防災」

2012年度

東日本大震災
報告書都市計画編
目次作成

【公開小委員会】
東日本大震災
復興状況共有

2012年度詳細

2012.4 東日本大震災報告書目次案作成

5 主査幹事・WG 主査打ち合わせ

7 幹事会・WG

8

11 幹事会・WG

2013.1 幹事会・WG

3 幹事会・WG

東日本大震災復興状況共有
随時メールにて情報交換

報告書編集WGへ　　次期委員会活動へ　　刊行

ホームページ：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s5/bosai.htm

⑤ 地域まちづくり小委員会

1. 活動の目的

地方都市のリ・デザインに焦点を当て、地域文化・産業と一体化したコンパクトシティの実現をめざし、都市コンパクト化に向けた中心市街地と郊外での土地利用の積極的な転換と居住地再編に関して、具体的な都市を取り上げて提案することを目的とする。

2. 委員会の組織

主査:鵤心治(山口大),**幹事**:浅野純一郎(豊橋技科大),小林剛士(山口大),**委員**:石村壽浩(ランドブレイン),樋口秀(長岡技科大),内田奈芳美(金沢工大),野嶋慎二(福井大),神吉紀世子(京都大),内田晃(北九大),長聡子(新潟工大)

3. 活動内容

2011年度の主な活動

1)視察・研究会(西条市・松山市)

2)大会OS(19編)

2012年度の主な活動

1)視察・勉強会(柏崎市・長岡市・岐阜市)

2)大会OS(26編)

3)全国大規模跡地行政アンケート調査

4. 活動の成果と評価

1)線引き廃止都市での郊外土地利用コントロールと併せた中心市街地施策の現状整理(西条市)

2)中心市街地の連鎖的市街地再開発事業の事例整理(長岡市、岐阜市)

3)観光資源を最大限活用した市街地再生手法の整理(松山市)

4)市街地再生のための市街地内大規模跡地活用事例の整理(柏崎市)

5)以上と並行して、全国の地方都市へ行政アンケートを試み、全体像を整理する予定である。

土地利用小委員会との合同設置の**都市形成WG**が中心となって進められたOSを通して、上記成果の発表、関連研究の公表を行い、概ね、当初計画は、達成できた。

5. 今後の展開

本小委員会は、次年度より「**都市再生手法小委員会**」として、継続中の調査にテーマを絞り、地方都市の中心市街地の跡地活用や建築ストック活用等の都市再生手法について、検討を進め、公開研究会、シンポジウムを開催し、都市再生手法ガイドラインとして提言を試みる予定である。

⑤ 地域まちづくり小委員会

2011.4

小委員会・WG 立ち上げ

小委員会・都市形成WG
活動計画/公募メンバー選定

小委員会活動①
研究フレーム検討
視察ヒアリング

WG活動①
OS開催（19編）

西条市ヒアリング・見学会
線引き廃止後の再生手法

2012.4

小委員会・WG合同活動①
地方都市大規模跡地の実態調査
担当ブロック別行政アンケート実施計画検討

小委員会活動②
アンケート実施
都市再生のタイプ別ヒアリング・視察

WG活動②
OS開催（26編）

小委員会+都市形成WG：OS開催
地域資源を活用したコンパクトな市街地形成のための技術

2013.3

コンパクトに資する都市再生手法／郊外土地利用一体型，市街地再開発連鎖型，大規模跡地活用型，観光資源活用型
→都市再生手法ガイドラインの提案

ホームページ：http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/

⑥ 土地利用計画小委員会

1. 活動の目的

非成長時代に相応しいアーバンフォームとそれを実現するための土地利用計画制度とマネジメントを検討する。

2. 委員会の組織

主査：浦山益郎、委員：15名（大学11名、研究所2名、公益法人1名、民間企業1名）

地方都市の都市形成WG：14名。非成長時代における都市構造およびまちなか再生など集約型の都市づくりのあり方の検討を目的とし、大会時にOSを企画実施する。

3. 活動内容

2009年度：小委員会の活動テーマを検討した。（小委員会3回）

2010年度：非成長時代に期待される都市構造に関する情報を収集した。（小委員会3回、見学会、OS）

2011年度：人口減が予想される被災地の復興計画の課題を検討した。これまでの成果にもとづいてPDを実施した。（小委員会3回、見学会、PD、OS）

2012年度：鉄道事業者のまちづくりと沿線自治体の取り組みのあり方を検討した。（小委員会3回、見学会、OS）

4. 活動の成果と評価

非成長時代に期待されるアーバンフォームおよび土地利用計画のマネジメントに関する研究成果を大会のOSおよびPDで報告討論した。また、PD資料として「スマートシュリンクと空間管理」をまとめた。

非成長時代に期待される都市構造、人口減少が予想される地域の土地利用計画の課題および、それを実現するための方策である鉄道駅周辺の土地利用計画の可能性と課題について、見学会やOS、PDの討議によって検討を深めた。

また、小委員会活動の経過および各委員からの提言をHPにとりまとめた。

以上から活動計画はおおむね達成された。

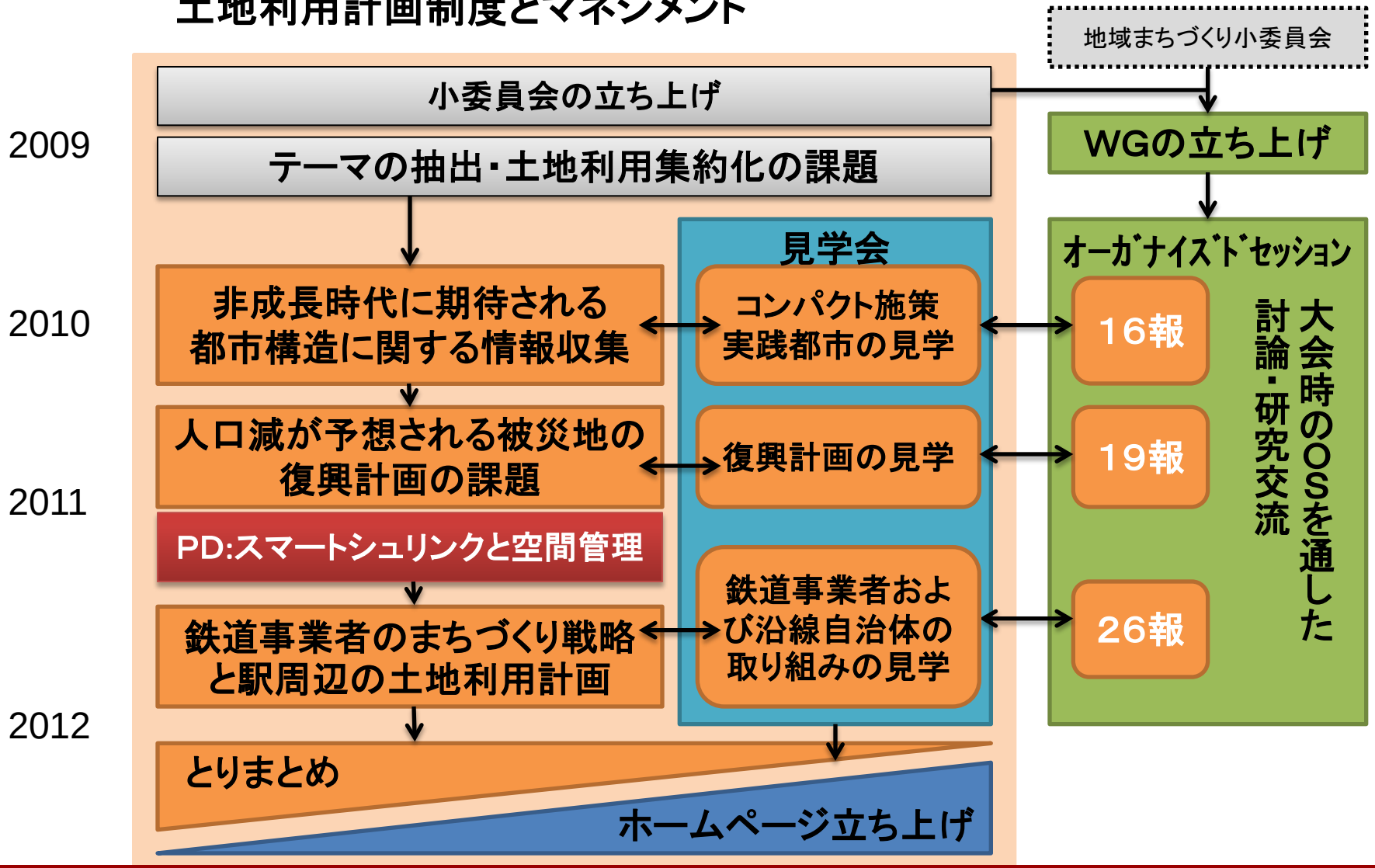
5. 今後の展開

小委員会活動を通じて、各委員が獲得した知見および集約的土地利用を実現するための手法や事例を、小委員会のHPにおいて公表する。

ホームページ：http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/tochisyouinkai/tochimain.html

⑥ 土地利用計画小委員会

テーマ：人口減少時代に相応しいアーバンフォームとそれを実現するための土地利用計画制度とマネジメント



ホームページ：http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/tochisyouinkai/tochimain.html

⑦ 地域文脈形成・計画史小委員会

1. 活動の目的

都市計画、建築計画、農村計画、建築・都市史の分野から先進的な研究を進めている研究者を委員に選定し、もしくは研究会に招き、「地域文脈」についての新たな理論体系の構築を行う。

2. 委員会の組織

①小委員会：主査・木多道宏、委員・15名
②3WG
・計画理念研究WG（委員9名）：日本ならびに諸外国を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの理念・思想的根拠を整理
・地域形成史研究WG（委員17名）：地域文脈の事例収集と、近代化・時代移行の概念を考察
・地域マネジメント研究WG（委員13名）：日本ならびに諸外国の都市・地域を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの方法を検証

3. 活動内容

①連続研究会（非公開）を開催した。
・第1回：共産主義・全体主義から解放された都市
・第2回：更新と文脈継承
・第3回：計画と形成
・第4回：都市・集落の生態的組織
・第5回：近代的計画に『転写』された地域構造の解読と継承
・第6回：民家・敷地利用からみた地域性と災害復興
・第7回：東京の都市形成の再評価
・第8回：継承のしくみ・担い手
②「東日本大震災と都市・集落の地域文脈ーその解読と継承に向けた提言」を執筆し、冊子体やホームページ（pdf版原稿のダウンロード可）に公開した。

4. 活動の成果と評価

国内外における地域文脈の形成・継承の事例収集とそのしくみの解明、大災害を通して継承すべき「大切なもの」の考察を行った。

5. 今後の展開

3月に公開小委員会を開催し、地域文脈に関する考え方、特に60年・70年代の開発に対するアンチテーゼとして論じられてきた文脈（論）と、現代に取り上げるべき地域文脈（論）との違いを明確にし、書籍出版のための「アジェンダ」を再構築する。

⑦ 地域文脈形成・計画史小委員会

テーマ:「地域文脈」の概念とデザイン論の体系化

◆連続研究会（非公開）

2009 【理論化の試み】
・コンテクスチャリズム、ティポロジア、地域文脈の考察
・空間・社会・計画理念・社会経済・体制における地域文脈の解読
【システムと文脈の解読、計画と形成の概念整理】
・村落と屋敷の対応関係からみた散村の構成原理
・都市改変・市区改正による都市組織の再組織化
2010 ・建物更新による空間システムの継承
2011 【近代の再評価】
・近現代に読み込まれた前近代の空間システムの解読と継承
・米国の近現代が生成する地域文脈の再評価
・近代における施設・場所の変遷と都市計画・形成上の意義
・空間認識からみた郊外形成の原理
2012 【現代社会と縮退社会への対応】
・被災地における「大切なもの」の考察
・大災害を超えた計画思想とまちづくりの精神の継承
・創造的縮退、創造的復旧に継承される地域文脈
・コミュニティアーキテクトの役割と育成

◆3WGによる研究会の成果の整理

①計画理念
②計画
③マネジメント

◆東日本大震災からの復旧・復興への提言

①考え方のガイドライン
②復旧・復興の履歴
③「大切なもの」の考察

◆総括と展望

2013 公開小委員会「成長時代のコンテクスチャリズムから人口減少・大災害時代の地域文脈論へ
→ 地域文脈デザイン小委員会への引き継ぎと出版とための枠組みの再構築

⑧ キャンパス・地域連携小委員会

1. 活動の目的

①地域と大学の連携に対する都市計画的方策
②大学施設の計画とマネジメントを地域連携とともに戦略的に実行するための方法論
③都市・地域と大学の戦略的連携の理念と手法
④成果を外部組織、団体に還元していく社会貢献に関する連携関係の構築

2. 小委員会の組織

①主査・倉田直道（工学院大）、幹事・小篠隆生（北大）、小松尚（名大）、委員12名。
②WGは以下4つを設置。

・サステイナブルキャンパスWG：
SCを構築するためにその枠組みとガイドラインの検討

・都市・地域と大学経営WG：
都市計画、地域経営、都市再生等の視点から、都市・地域と大学の戦略的連携の理念と手法を検討

・連携コミュニティ形成支援WG：
大学・地域連携の実践に関する情報交流を推進

・アーバンデザインWG：
大学キャンパス都市デザインの重要要素として捉えるための計画論・手法を検討

3. 活動内容（2009～2012年）

- 大会研究集会を2回（隔年）、大会OSを4回（毎年）開催、シンポジウムを4回（毎年）開催
- 『いまからのキャンパスづくり』刊行（2011年）。
- ISCN(International Sustainable Campus Network)年次大会に2009年から毎年出席
- 東日本大震災関連の調査・シンポ・報告書（2011）
- 小委員会メンバーが科研費を3件獲得（基盤B,C）

4. 活動の成果と評価

- 小委員会＋4WGとの運営体制で同時並行的に複数のテーマの検討と成果の発現
- 科研費により活動経費の獲得や多数の論文発表などにより、研究成果の蓄積や発信が進んだ。
- 海外とのネットワークづくりが大きく進展

5. 今後の展開

- 新メンバーの加入やWGの再編を行い、「大学・地域デザイン小委員会」として発展的に活動予定
- 各種集会企画や国内外での出版計画を実施。

ホームページ：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/campus/

⑧ キャンパス・地域連携小委員会

活動内容

（関連成果）

2009

小委員会・WG立ち上げ

大会PD・OS企画

第13回情報交流シンポ（@仙台:80人）

ISCN参加 @ローザンヌ

小委員会・WGの成果共有と課題、展開方法の確認（7+11回開催）

科研費（基盤C）
地域のまちづくり主体と大学の連携体によるキャンパス公共空間の協働マネジメント研究

2010

大会OS企画

第14回情報交流シンポ（@金沢:35人）

ISCN参加@上海

小委員会・WGの成果共有と課題、展開方法の確認（7+8回開催）

文科省
戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き策定協力

2011

大会OS企画

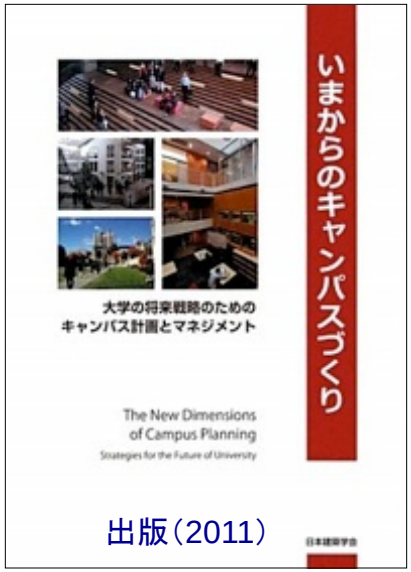
ISCN参加 @イエーテボリ

東日本大震災 大学・地域連携緊急調査
＋第15回情報交流シンポ（@東京：50人）

『いまからのキャンパスづくり』刊行

小委員会・WGの成果共有と課題、展開方法の確認（9+11回開催）

科研費（基盤B）
持続可能な地域の実現に貢献するサステイナブル・キャンパスモデル構築に関する研究



出版（2011）

2012

大会研究懇談会・OS企画

第16回情報交流シンポ（@名古屋：50人）

ISCN参加 @オレゴン

小委員会としての4年間の成果・課題の整理、確認（9+5回開催）
⇒2013～「大学・地域デザイン小委員会」に発展的に再編

科研費（基盤C）
大学・地域のサスティナブルな発展のためのキャンパスの移転・撤退の総合評価

文科省
キャンパスの創造的再生策定協力

ホームページ：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/campus/

⑨ 環境都市モデル小委員会

1. 活動の目的

地域における身近な環境の保全・改善のための都市計画システム（法制度手法、行政システム、コミュニティ・プランナー制度、NPO活動及び支援方策、等）の実態とあり方について、各地域での実践事例の検証を通して、国内外の環境改善協働プロジェクト展開へ向けた研究を行う。

2. 委員会の組織

主査：池田孝之（沖縄美ら島財団）、監事：辻本乃理子（大阪健康福祉短期大学）、小野尋子（琉球大学）、他12名。

3. 活動内容

・2009年度：地域の身近な環境保全・改善活動と計画支援の実態把握。大会OSの企画運営。
・2010年度：環境保全・改善計画手法の検証。大会OSの企画運営。
・2011年度：大会OSの企画運営。PD又は研究協議会の準備。
・2012年度：大会OSの企画運営。環境モデル都市の実態と課題に関する研究懇談会の開催。

4. 活動の成果と評価

（1）地域の身近な環境の保全・改善活動と計画支援制度の事例収集、成果を学会論文として発表した。
（2）2009～2012 年度大会時のOS論文審査及び運営を行った。
（3）宮古島市環境モデル都市の現地調査、ヒアリング、資料収集を実施。
（4）2009～12 年度の活動として全国の環境モデル都市を継続的調査、成果をもとに2012 年度の学会大会時に研究懇談会を開催。環境モデル都市・研究懇談会資料集を刊行した。

以上を通して所定の目標を達成した。

5. 今後の展開

（1）都市計画手法による環境計画の方法論とあり方について、環境まちづくりを展開する。
（2）環境モデル都市、環境未来都市、スマートシティ等、具体的な地域の事例調査、見学会、出前講座、地域懇談会等の活動を行う。
（3）それらの成果として、研究発表、大会時のOS 運営、PD等の実施 、出版物を刊行する。

⑨ 環境都市モデル小委員会

2009.4 環境計画小委員会

8 OS「身近な環境の保全・改善と支援方策」

小委員会活動　環境保全・改善の実態調査

2010.9 OS「身近な環境の保全・改善と支援方策」

小委員会活動　環境保全・改善支援の調査

2011.8 OS「身近な環境の保全・改善と支援方策」

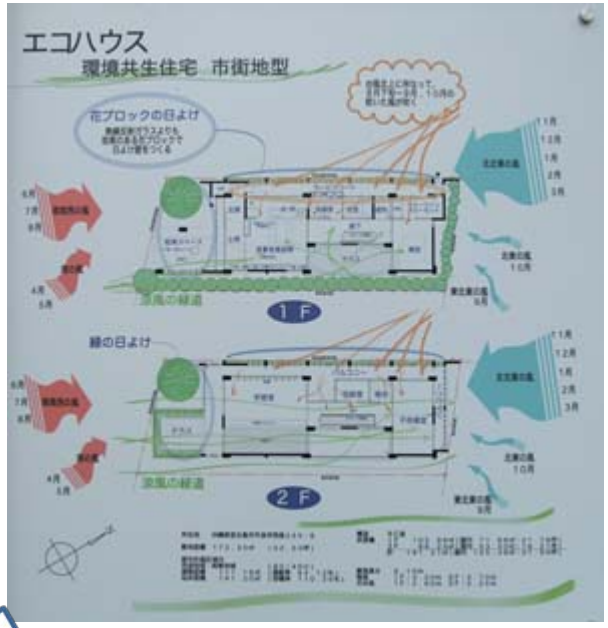
小委員会活動　環境モデル都市の実態調査

2012.4 環境都市モデル小委員会

9 OS「環境モデル都市と環境まちづくり」

大会研究懇談会「環境モデル都市の実際と評価」、研究懇談会資料刊行

12 2013.3 次年度以降の環境まちづくり小委員会についての実施項目検討



エコハウスの仕組み

環境共生型集合住宅

ホームページ： http://blogs.yahoo.co.jp/kankyo_machi

４．小委員会活動の活性化に向けた取り組み

2010～2011年度

- 小委員会の自己点検シートの導入。自己点検評価と連動した予算配分
- 拡大幹事会（年2～3回）の開催による各小委員会間の活動の共有化
- 小委員会メンバーの新陳代謝、若手の登用などを進めるルールの導入

2012年度～

- 小委員会一斉改組に合わせた新設小委員会・ＷＧのテーマ公募制の導入
  その際、若手グループからの提案を奨励
- 小委員会の到達点と成果の明確化（社会貢献へのタスクフォース型を指向）
- 小委員会ホームページの充実化のための定期的点検